



【特集】「1人1台端末を活用した授業改善」公開授業研究会

12月7日(木)に、「1人1台端末を活用した授業改善」に係る公開授業研究会を実施しました。公開授業では、研究授業4件の他、フリー参観として1人1台端末を活用した授業を公開し、県内外の小中学校、特別支援学校からの参加がありました。授業研究会では、参加者のみなさんからたくさんのご質問やご意見、ご感想をいただきました。



指導助言・講演 長野県長野養護学校 青木高光 教諭

(長野県特別支援教育ICT活用推進ブロックリーダー、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所特任研究員)

本校研究主題を踏まえ、研究授業における気付きや ICT の活用について、これまでのご自身の実践と関連させながらお話していただきました。

■ 研究授業へ向けた取り組み

研究内容

① 視点1、2を踏まえた、これまでの授業の振り返り

これまでの授業を振り返る

視点	内容
視点1	「分かる」授業の実践
視点2	「できる」学習の実践

研究内容

② 視点1、2を踏まえた、1人1台端末を活用した授業づくり

授業づくり

視点	内容
視点1	「分かる」授業の実践
視点2	「できる」学習の実践

① これまでに実施したある授業について、「分かる」授業、「できる」学習になっていたかという視点で振り返り、課題や改善点を見出す。1人1台端末の活用で改善できそうなものについては、具体的な姿をイメージする。

研究内容

② 視点1、2を踏まえた、1人1台端末を活用した授業づくり

授業づくり

視点	内容
視点1	「分かる」授業の実践
視点2	「できる」学習の実践

研究内容

② 視点1、2を踏まえた、1人1台端末を活用した授業づくり

授業づくり

視点	内容
視点1	「分かる」授業の実践
視点2	「できる」学習の実践

② 課題や改善点をもとに、学習目標や児童生徒の実態に応じて、学習目標を達成できるような1人1台端末を活用した「分かる」授業、「できる」学習となる授業づくりを行う。

■ 研究授業紹介(授業者による自評)



研究授業1「ハヤシライスをつくろう」(生活単元学習)小学部

これまでの調理学習や制作活動においては、全体に向けて電子黒板で手順を提示したり、めくり式の手順書を机の上に置いたりして学習を進めてきた。作業が速い児童、作業に時間が必要な児童がいるため、教師が電子黒板の手順書をその都度先に進めたり戻したりしていた。1人1台端末を利用することで、それぞれの調理のスピードに合わせて、児童が自分で手順書を確認しながら調理を進めることができた。



研究授業2「よく見て遊ぼう」(自立活動)小学部

筋緊張が強く、随意的に手を使うことが難しい児童に対し、視線入力を用いたことについては、適切だったと思う。対象を注視したり視線を動かしたりして操作できるゲームに取り組むことで、視線入力に慣れてきた。本時の学習では、より明確にフィードバックできるような手立てができればよかったと、教材研究において反省をしている。今後は、視線入力を用いて意思を表出したり、コミュニケーションをとったりすることを目指していきたいと考えている。



研究授業3「変奏しよう」(音楽)中学部

端末の画面を電子黒板に複製し、操作する場所を指差しながら手本を示したことや、毎時間の学習の始めに操作の確認をしたことで、生徒の理解度を知り、生徒の実態に応じた支援や指導につなげることができた。生徒によっては、友達と協力して一つの曲になるように小節を分けて課題を提示していたが、操作に夢中になり、1人で次々にプログラム(作曲)をする様子が見られた。2人で1台の端末を使い、話し合う時間を設けるなど、協力するための手立てが必要だったと思う。



研究授業4「交流会を成功させよう」(総合的な学習の時間)中学部

授業の最初に、電子黒板上に画像などを使って学習内容を提示したことは、生徒が授業全体の流れをつかむ上で有効だった。生徒の役割については、生徒に応じて外部スイッチなどの手立てを準備し、「自分の動きで音が鳴る」「自分の動きで画面が動く」ことが分かりやすいようにしたこと、意欲的に取り組めていたと思う。重複障害のある生徒の中には視覚障害を合わせ有する場合があるので、そのような生徒への学習用端末の活用についても考えていきたい。

外部からご参加いただいた方々の声(原文ママ)

<研究授業・フリー参観について>

- ・ICT機器を活用しながら、子どもたちが精一杯活動する姿をたくさん見せていただき、とても勉強になりました。授業研究会では先生方の授業への思いや本時に向けた支援などについて詳しくお話が聞くことができ良かったです。助言の先生方からのお話もさらに授業の見方、子どもたちの姿の見取り方などを勉強させていただきました。(特別支援学校)
- ・子どもたちの実態が様々な中、可能な限り授業の様子を見せていただき勉強になりました。研究授業のクラス以外でも様々な場面でICT機器を活用されていて、普段から活用されていることが伝わってきました。(特別支援学校)
- ・素晴らしい授業を参観させていただき、ありがとうございました。持ち帰って本校でも実践したいと思います。(小中学校)
- ・初めて知的障害の学級の授業を見ました。ICTを使う活動と使わない活動の使い分けが勉強になりました。(特別支援学校)

<講演について>

- ・グサッと心に刺さる講演会でした。特に印象的なのは「見る」ことについて話されたことです。こんなに細かく段階が分かれることを知らなかったの、今後の指導で意識して取り組みたいと思いました。また勉強していきたいと思いました。(特別支援学校)
- ・青木先生のお話がとにかくおもしろかったです。児童生徒の実態把握を丁寧かつ、複数の視点で行い、それをチームで検討すること。大人の手で大人の声で…ではなく、子どもが見て分かって動けるようにするためにはどうすればいいのか、を職員全員が意識しないといけないと思いました。ありがとうございました。(特別支援学校)

*学校 Web サイトでは、カラー版を掲載しています

© 2024 Saga Pref. Nakabaru Special Needs School